



# JASIリサーチメモ

R6-09号：2025年2月19日

## 中国におけるロケット軍建設

### ーシリーズ⑤ー北部戦区の組織編成及び部隊所在地について

防衛戦略研究室 防衛事務官 千綿 るり子

#### 一 項 目

#### 1 趣 旨

#### 2 ロケット軍北部戦区の概要

#### 3 第65基地の組織編成及び部隊所在地等

- ① 中国軍の組織編成図
- ③ ロケット軍第65基地 (96605部隊)
- ⑤ 第652旅団 (96752部隊)
- ⑦ 第654旅団 (96754部隊)
- ⑨ 第656旅団 (96756部隊)
- ⑪ 通信連隊 (96852部隊)
- ⑬ 総合保障連隊 (96854部隊)

- ② ロケット軍部隊の編成及び所在地
- ④ 第651旅団 (96751部隊)
- ⑥ 第653旅団 (96753部隊)
- ⑧ 第655旅団 (96755部隊)
- ⑩ 訓練連隊 (96851部隊)
- ⑫ 作戦保障連隊 (96853部隊)
- ⑭ 装検旅団 (96035部隊)

#### 4 評 価

## 1 趣 旨

本資料は、「中国におけるロケット軍建設」に関して、「シリーズ④西部戦区の組織編成及び部隊所在地について」に続き、北部戦区の組織編成及び部隊所在地についてまとめたものである。作成に際しては東部や南部、西部戦区同様、公開情報(\*1)により旅団レベルまではその所在地を確認できたが、大隊レベル以下の細部編成についてはその確認が難しいことから、米空軍の中国航空宇宙研究所(CASI)発表の「人民解放軍ロケット軍の組織」(\*2)に従いまとめた。

## 2 ロケット軍北部戦区の概要

中国ロケット軍は中国全土に9か所の基地を有しており(\*3)、この内、北部戦区(基本的に黒竜江省、吉林省、遼寧省、内モンゴル自治区及び山東省)には第65基地が所在しており、本資料ではこの第65基地を取り上げる。

### (1) 第65基地の歴史的経緯

ロケット軍第65基地の前身組織となる第51基地の指揮部は1965年5月、302工程指揮部(120部隊)として設立されており、1968年5月25日、正式に第51基地と改称されている(\*4)。

その後、2015年末以降の軍改革の断行に伴い、第51基地から現在の第65基地へと改編されている。

### (2) 習近平主席の北部戦区視察時の注目事象

習近平主席は、2025年の春節(1/29)前の1月24日、北部戦区機関を訪れ、部隊における戦備当直や任務遂行の状況を視察するとともに、テレビ電話を通じて中国各地の部隊を激励した。

その際、テレビ電話には、南部戦区陸軍旅団分隊、東部戦区海軍対艦ミサイル連隊当直分隊、中部戦区空軍地対空ミサイル大隊、軍事宇宙部隊観測警戒所、鄭州聯勤保障センター自動車輸送連隊第2大隊、武警チベット総隊シガツェ執勤第3大隊が整列している状況が映し出されたが、4軍種(陸・海・空・ロケット)中、ロケット軍のみが参加していなかったことを指摘できる。



## 3 第65基地の組織編成及び部隊所在地等

4頁以降の①から⑮に示すとおり。

\*1:温約瑟「中国人民解放军基地及び施設」[https://umap.openstreetmap.fr/en/map/by\\_77487#11/19.7751/110.7003](https://umap.openstreetmap.fr/en/map/by_77487#11/19.7751/110.7003); Decker Eveleth “People’s Liberation Army Rocket Force of Battle 2023” James Martin Center of Nonproliferation Studies Middle Institute of International Studies at Monterey, JULY 2023; 陳振国, 杜建明「中共火箭军战术弹道导弹对我军事之威胁与因应对策(中国共产党ロケット軍戦術弾道ミサイルの台湾軍に対する脅威と対策)」『海軍學術隔月刊』第51卷第6期; 陳振国「浅析中共『火箭军』发展与运用(中国共产党『ロケット軍』の発展と運用に関する分析)」『海軍學術隔月刊』第55卷第1期等

\*2:Ma Xiu “PLA ROCKET FORCE ORGANIZATION” China Aerospace Studies Institute, <https://airuniversity.af.edu/Portals/10/CASI/documents/Research/PLARF/2022-10-24%20PLARF%20Organization.pdf> (August 5, 2024)。以下、CASIレポートと略する。

\*3:『環球時報』2015年9月1日。

\*4:「永遠の『二砲』、中国人民解放军ロケット軍の編成に際して」『歴史資料網』2022年5月19日、<https://lishiziliao.com/zhanshi/34848.html>



#### 4 評価

ロケット軍第65基地のミサイルは、単純にその射程からみれば、第651旅団及び第652旅団は大陸間弾道ミサイルであり、米国本土向けと考えられる。第653旅団のDF-21Dは対艦弾道ミサイルであるため、黄海、日本海、東シナ海向けであろう。第654旅団は日本やフィリピンを始めグアムまでが射程に入るだろう。第655旅団が装備するDF-17は、通常弾頭の極超音速滑空ミサイルであり、日本を含め台湾までが射程に入る。

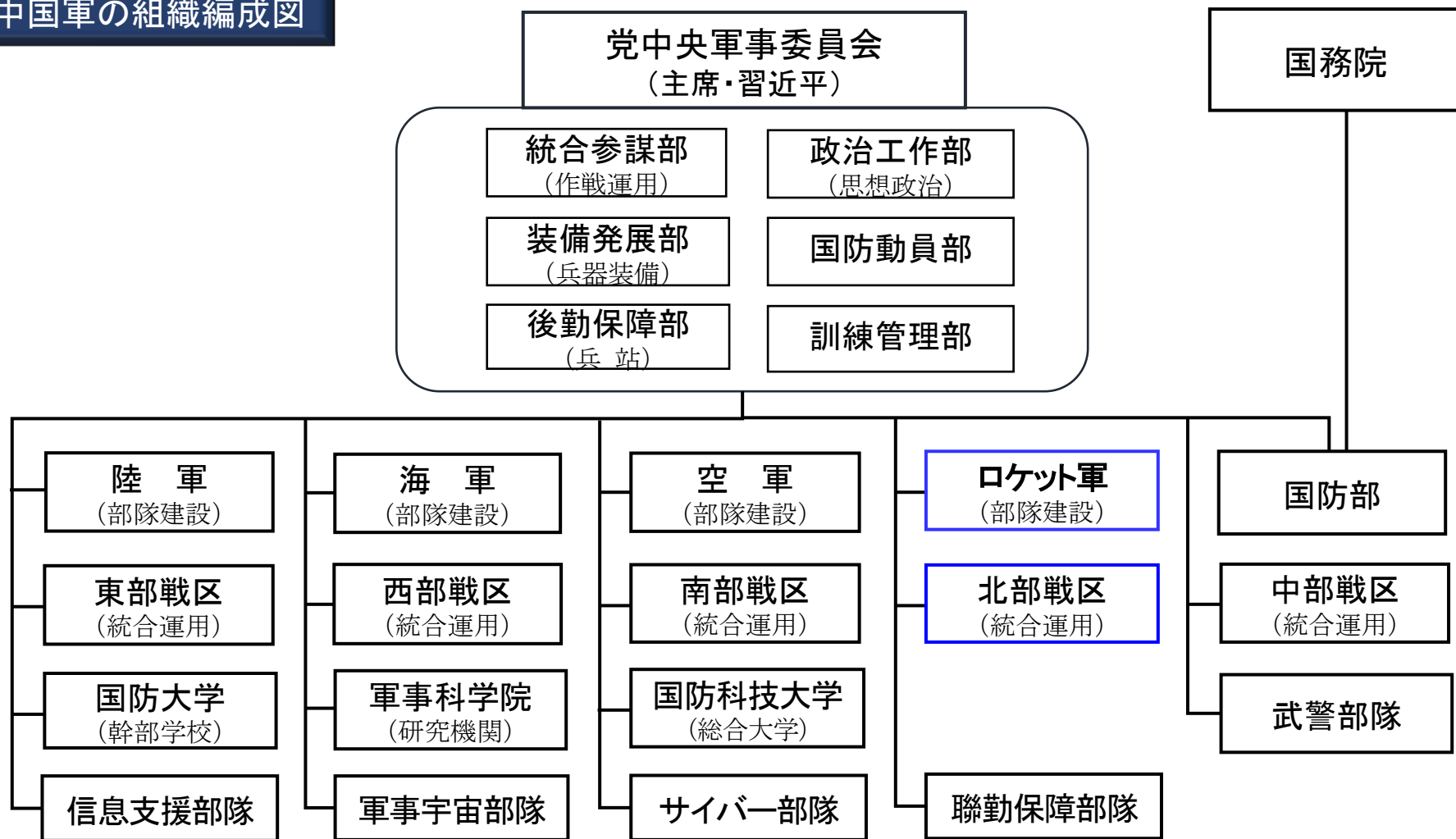
なお、第656旅団は、DF-31AG又はCJ-100のいずれか或いはその両方を装備している可能性も考えられ、細部不明である。



Google Earthによれば、第65基地のミサイル旅団司令部に関しては、その大半の施設において増設がなされている状況が認められる。特に、第651旅団や第652旅団では近年、施設の大規模な拡大や増設が確認されるが、当該部隊には米国本土向けのミサイルが装備されていることを踏まえれば、中国は特に米国向けのミサイルを増強していると言えるだろう。

一方で、第65基地の後方支援連隊の司令部に関しては、訓練連隊を除き、施設において敷地の拡大等の大規模な変化は認められないことを指摘できる。

## ① 中国軍の組織編成図

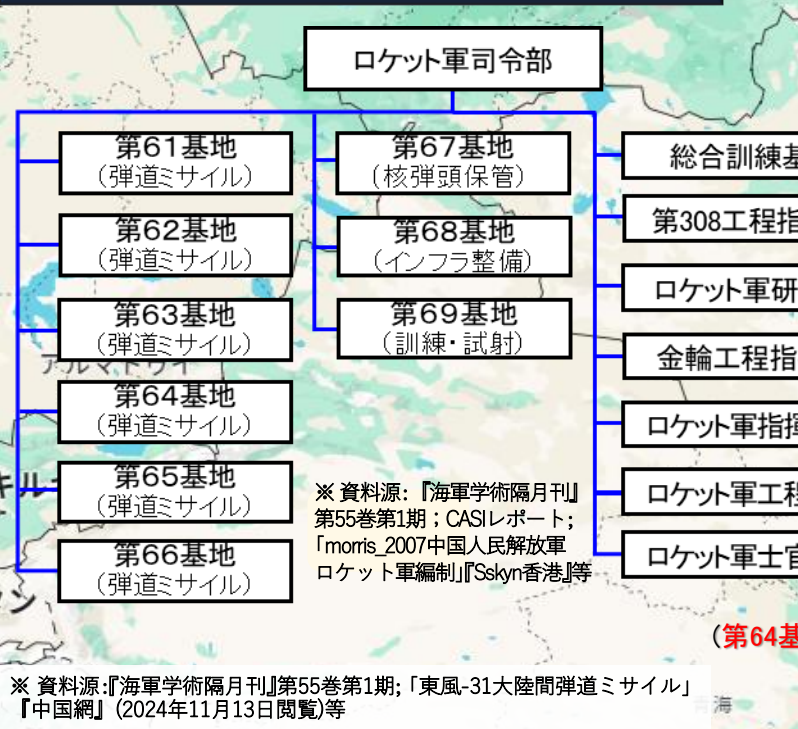


中国人民解放軍全体の組織編成については、中央軍事委員会(主席:習近平)の下に、各軍種(陸・海・空・ロケット)、各戦区(東部・西部・南部・北部・中部)等が同じ並びで置かれ、それぞれが中央軍事委員会から直接指揮・指導を受ける体制がとられている。

この内、中国において核兵器やミサイルの運用を担当してきた第2砲兵は2015年末、第2砲兵からロケット軍へと改称され、陸・海・空軍と並ぶ軍種へ格上げされている。



② ロケット軍部隊の編成及び所在地



| 飛行距離          | ミサイル                     | 弾頭の種類    |
|---------------|--------------------------|----------|
| SRBM<br>(短距離) | DF-11A (500km)           | 通常弾頭     |
|               | DF-15B (600km)           | 通常弾頭     |
| MRBM<br>(中距離) | DF-16 (1,500km)          | 通常弾頭     |
|               | DF-17 (2,500km) (極超音速滑空) | 通常弾頭     |
|               | DF-21 (3,100km)          | 核弾頭      |
| IRBM          | DF-26 (4,000km)          | 核弾頭・通常弾頭 |
| ICBM<br>(大陸間) | DF-5A (13,000~15,000km)  | 核弾頭      |
|               | DF-31 (8,000km)          | 核弾頭      |
|               | DF-31A (10,000km)        | 核弾頭      |
|               | DF-31AG (12,000~13000km) | 核弾頭      |
|               | DF-41 (12,000~15,000km)  | 核弾頭      |



ロケット軍部隊は、公開情報(『環球時報』2015年9月1日)によれば、中国全土の9か所の基地、学校等に兵力14万人を有しており、SRBM(通常弾頭)からICBM(核弾頭)まで各種ミサイルを運用しているとみられる。



### ③ ロケット軍第65基地(96605部隊)の編成

41° 51'30"N 123° 27'07"E (遼寧省瀋陽市皇姑区鴨緑江北街53号)



旧51基地(旧96101部隊)



北部戦区(黒竜江省、吉林省、遼寧省、内モンゴル自治区及び山東省)には第65基地が所在しており、同基地は第651旅団から第656旅団までを有する。その司令部は、公開情報(「96605部隊道路点検修理入札募集公告」『news.lqsbcl.net』2017年6月12日、<http://m.lqsbcl.net/news/201706/185742.html>)から、遼寧省瀋陽市皇姑区鴨緑江北街53号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2002年5月23日時点で既に当該場所に部隊が所在していたことを確認できる。



#### ④ 第651旅団(96751部隊)

旧810旅団(96113部隊)

Google Earth(Maxar Technologies)2020/10/18以前

Google Earth(Maxar Technologies/Geo Eye)2011/6/29以前



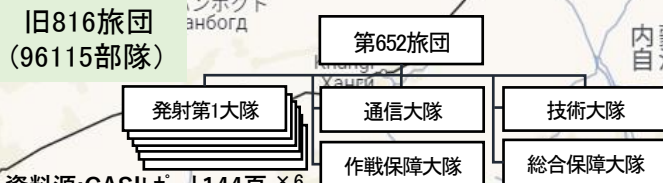
第651旅団(96751部隊)の司令部は、CASIによれば、内モンゴル自治区赤峰松山区に所在することが確認される。

Google Earthによれば、同司令部は、2011年6月29日時点で既存の施設を解体中、2020年10月18日時点で新たに施設を建設中、2022年10月18日時点も建設継続中の状況が認められる。また、新設中の施設には、建屋が交互に配置された特徴的なものが認められる。

CASIによればDF-41(核弾頭)を装備しているとされるが、DF-41は2019年10月の軍事パレードで初披露されており、施設の新設はDF-41の装備のためのものある可能性が考えられる。



# ⑤ 第652旅団(96752部隊) 1/2



第652旅団(96752部隊)の司令部は、公開情報(「96752部隊通信システムアップグレード装備品の調達入札募集終了公告」『中国油田入札募集・入札網』2018年5月30日、<http://www.ytbtbw.com/g-oilfield-16790056800--27036202.html>)から、吉林省通化市東昌区金広鎮に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2014年9月11日時点で施設が増設中、2016年10月23日時点で概成している状況が確認された。また、司令部に隣接した場所において地下格納庫とみられる施設を建設中である状況が確認される。

CASIや温約瑟はDF-31A(核弾頭)を装備している可能性に言及しているが、DF-31Aは2015年9月の軍事パレードで初披露されており、施設の増設はDF-31Aの装備に伴うものであった可能性も考えられる。



# ⑤ 第652旅団(96752部隊) 2/2

旧810旅団(96113部隊)

43° 56'27"N 126° 26'59"E (吉林省吉林市繁榮村)



第652旅団(96752部隊)は、温約瑟によれば、吉林省吉林市繁榮村に隷下部隊を有する。

Google Earthによれば、2019年11月28日時点まで更地であった場所において、2020年9月25日時点で造成中、2024年4月25日時点でなお建設中の状況が認められる。また、これらの施設の中には、建屋が交互に配置された特徴的なものが認められる。

CASIはDF-31又はDF-31A、温約瑟はDF-31A又はDF-31AG、Decker EvelethはDF-41を装備している可能性に言及しているが、この中では、2019年10月の軍事パレードで初披露されたDF-41が最も新しく、2024年4月時点でもなお施設が増設中であることを踏まえれば、これらはDF-41の装備に伴うものである可能性も考えられる。

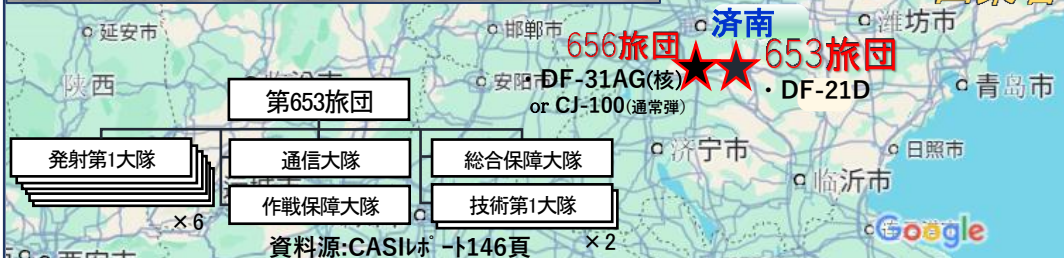




# ⑥ 第653旅団(96753部隊)

旧822旅団(96117部隊)

Google Earth(Maxar Technologies) 2022/10/28以降



第653旅団(96753部隊)の司令部は、公開情報(「山東省96753部隊暖房供給システム改修工事落札公告」『建築設計1号網』2019年11月20日、<http://www.jzsj.com/g-jianzhusheji-9976166904--37248443.html>)から、山東省済南市萊蕪区高新区汶水大街31号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2004年10月3日時点で更地であった場所において、2012年3月11日時点で既に施設が増設中であり、2018年9月23日時点で概成している状況が確認された。

CASIによれば、DF-21Dを装備しているとされるが、DF-21Dは2015年9月の軍事パレードで初披露されており、高層建屋等の増設は、DF-21Dの装備に伴うものであった可能性も考えられる。



## 新編部隊

增築(2013/5/22、概成)



Google Earthによれば、2006年2月12日時点で既に当該場所には部隊が所在していた状況が認められる。また、2013年以降、施設が増設されている状況が確認された。

CASIや温約瑟によれば、DF-26(核・通常弾兼備)を装備しているとされるが、DF-26は2015年9月の軍事パレードで初披露されており、施設増設はDF-26の装備に伴うものであった可能性も否定できない。





# ⑧ 第655旅団(96755部隊)

新編部隊

41° 40'02"N 125° 57'12"E (吉林省通化市)

第655旅団司令部

増設中

高層建屋

新村

本部

← ここまで建物

「DF-17」TEL

Google Earth(Maxar Technologies) 2022/11/18以前

「DF-17」TEL×7

17m

Google Earth(Maxar Technologies)2020/11/25以前

更地(2019年9月)

Google Earth(Maxar Technologies)2019/9/21以前

★内モンゴル

★赤峰  
651旅団  
・DF-41

★第65基地司令部

★瀋陽

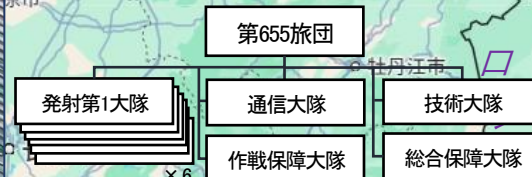
★遼寧省

★大連

★654旅団  
・DF-26

2019年軍事パレードで初披露の  
DF-17

※ 出典:「新華網」2019/10/1



資料源: CASIレポート149頁

吉林省

★通化  
652旅団  
・DF-31A

— 凡 例 —

★: 旅団司令部

※: Google Mapを基に筆者作成

第655旅団(96755部隊)の司令部は、CASIによれば、吉林省通化市東昌区金廠鎮に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2019年9月21日時点まで更地であった場所において、2022年11月18日時点でなお施設が増設中である状況が確認される。

また、CASIによれば、DF-17を配備しているとされるが、Google Earthによれば、車庫において、2020年11月26日に「DF-17」TELとみられる車両×7輛、2022年11月18日に「DF-17」TELとみられる車両×2輛が確認され、DF-17を装備しているとみられる。



## 新編部隊

N ←

## 本部

Google Earth  
(Maxar Technologies)  
2022/10/28以前

Google Earth(Maxar Technologies)  
2004/10/3以前

出典：「新華網」2019/10/1

建設中(2004年10月)

18m

出典：『新華網』2019/10/1

— 凡 例 —

· 旅团司令部

※ : Google Mapを基に筆者作成

## 第65基地司令部

• DF-31A  
652旅団

化★

5旅団

7

大連★654旅団  
・DF-26

第656旅団

発射第1大隊

通信大隊

資料源:CASIホ -ト150頁

第656旅団(96756部隊)司令部は、CASIによれば、山東省済南市萊蕪区に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、同司令部は2004年10月3日時点で建設中、2015年11月11日時点で概成、2010年10月24日時点で増設工事中、2019年11月19日時点で増設施設の概成状況が確認された。

温約瑟によればDF-31AG(2017年7月初披露)を装備しているとされ、一方でCASIによればCJ-100(通常弾。2019年10月初披露)を装備しているとされることから、DF-31AG又はCJ-100のいずれか或いはその両方を装備している可能性も考えられ、細部不明である。

Google Earthによれば、2022年10月28日時点で車庫前において長さ約18mのTELとみられる車両が確認される。

13

咸阳市 西安市



# ⑩ 訓練連隊(96851部隊)

旧96121部隊

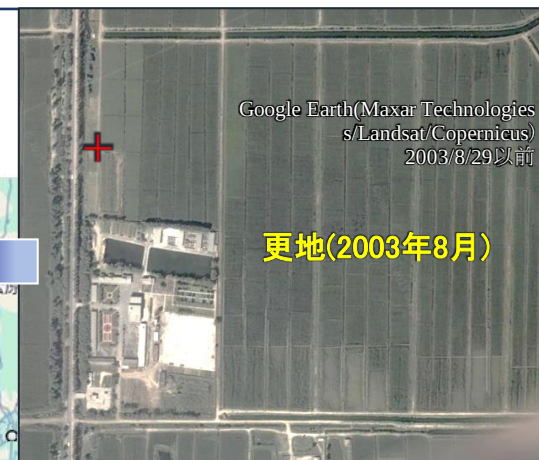
41° 03'44"N 122° 09'03"E (遼寧省盤錦市大洼区唐家鎮)



Google Earth(Maxar Technologies) 2021/3/22



Google Earth(Maxar Technologies) 2008/4/4



Google Earth(Maxar Technologies  
s/Landsat/Copernicus)  
2003/8/29以前



第65基地訓練連隊(96851部隊)の司令部は、CASIによれば、遼寧省盤錦市大洼区唐家鎮に所在することを確認できる。

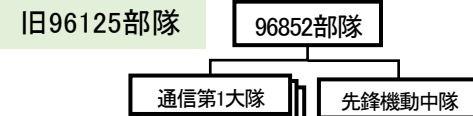
Google Earthによれば、2003年8月時点で更地であった場所において、2008年4月4日時点で施設が増設中、2013年9月11日時点で概成している状況が確認された。

その後も2021年3月22日に施設が増設されている状況が確認された。





# ⑪ 通信連隊(96852部隊)



※③ 資料源:CASIレポート152頁

# ⑫ 作戦保障連隊(96853部隊)



第65基地の通信連隊(96852部隊)及び作戦保障連隊の司令部は、CASIによれば、遼寧省瀋陽市皇姑区鴨緑江北街53号に所在することを確認できる。

いずれも、第65基地司令部と同様の敷地内に所在していることを指摘できる。



# ⑬ 総合保障連隊(96854部隊)

旧96124・96122部隊

## 総合保障連隊司令部

本部

41° 44'12"N 125° 57'19"E  
(吉林省通化市新光路9号)

Google Earth(Maxar Technologies)  
2022/11/18以降

2014年5月頃の状況

Google Earth(Maxar Technologies) 2014/5/22



第65基地の総合保障連隊(96854部隊)の司令部は、公開情報(「96605部隊部隊道路大規模修理入札募集公告」『news.lqsbcl.net』2017年6月12日。

<http://m.lqsbcl.net/news/201706/185742.html>から、吉林省通化市新光路9号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2014年5月22日時点で既に当該場所に部隊が所在しており、以降、顕著な変化は認められない。



# ⑭ 装検連隊(96035部隊)

旧96123部隊

Google Earth(CNES/Airbus) 2020/6/17以前

装検連隊司令部

本部

41° 35'59"N 126° 15'00"E

(吉林省通化市通化県果松鎮)

増設  
(2017/6/14 概成)

2017年6月頃の状況

Google Earth(CNES/Airbus) 2017/6/14以前

2014年9月頃の状況

Google Earth(CNES/Airbus) 2014/9/30以前

内モンゴル

651旅団  
赤峰  
・DF-41

第65基地司令部

瀋陽

通化

652旅団  
・DF-31A

655旅団  
・DF-17

遼寧省

大連 654旅団  
・DF-26

北朝鮮

韓国

— 凡 例 —

★：旅団司令部

※：Google Mapを基に筆者作成

96035部隊

総合保障大隊

技術勤務大隊

装検第1所

中継輸送中隊

警衛通信中隊

資料源:CASI 156頁

山東省

済南

653旅団  
・DF-21D

656旅団  
・DF-31AG(核)  
or CJ-100(通常弾)

第65基地装検(装備検査)連隊(96035部隊)の司令部は、公開情報(「96123部隊近接道路補修工事」『吉林省建設プロジェクト入札募集網』2016年8月10日 [http://bid.irsp.cn/BS\\_Portal/info/2016/08/10/38FA08B8-E544-4F6C-8B06-15FEDF86C20.html](http://bid.irsp.cn/BS_Portal/info/2016/08/10/38FA08B8-E544-4F6C-8B06-15FEDF86C20.html))から、吉林省通化市通化県果松鎮に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2014年9月30日時点で既に当該場所に部隊が所在している状況が確認され、以降、顕著な変化は確認できない。17



【研究者紹介】(防衛戦略研究室員)

博士(安全保障)。2015年3月、拓殖大学国際協力学科安全保障専攻博士課程修了、博士論文「中国人民武装警察部隊に関する研究－武警部隊と解放軍の関係と将来像－」。専門は中国の準軍事組織(中国人民武装警察部隊、海警、海上民兵等)や中国の宇宙開発等。著書(共著)に2008年 茅原郁生「中国の軍事力－2020年の将来予測－」蒼蒼社

本リサーチメモにおける見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省又は航空自衛隊の見解を表すものではありません。